

図 2.72 運営主体が民間であっても良いサービス（年齢階層別の回答者割合）

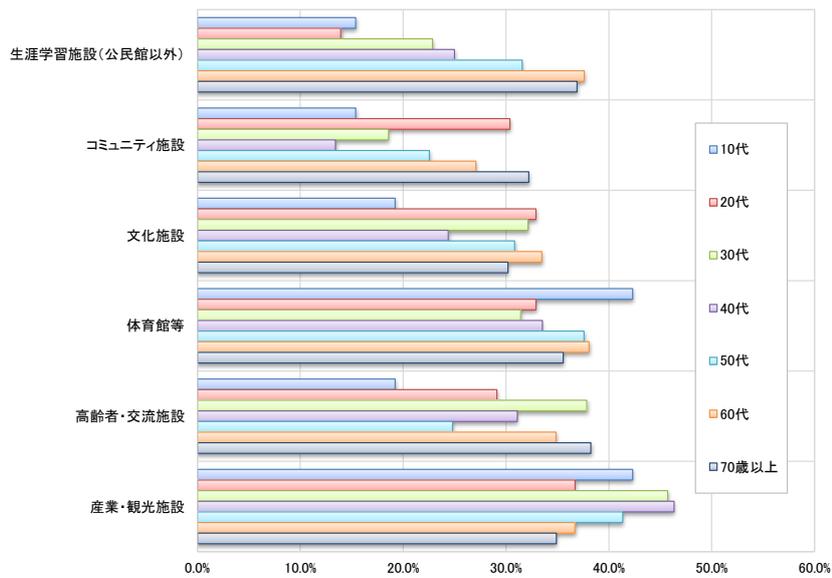


図 2.73 民間で提供すべきサービス（年齢階層別の回答者割合）

### ③ 地域で管理運営しても良いサービス [Q10 (6)]

#### ■ 地域になじみがある施設はコミュニティ施設や公民館。

○地域の住民が利用する機会の多い「コミュニティ施設」及び「公民館」については、1番目に選択する割合が多くなっています（図 2.74）。

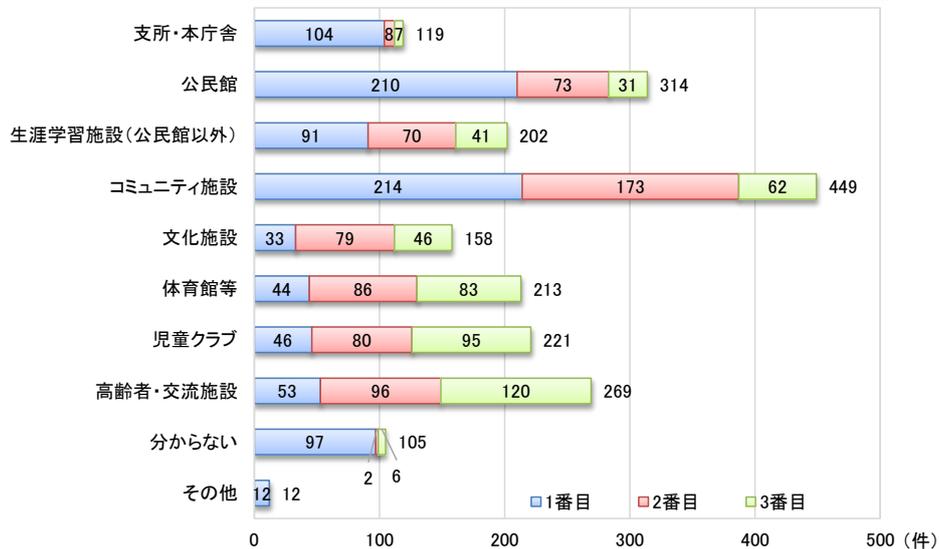


図 2.74 地域で提供しても良いサービス

#### ○ 公民館の管理については年齢階層で意見が分かれる。

・年齢階層別に見ると、コミュニティ施設については世代間の差は小さいものの、公民館では30代、40代の回答が他の世代より多くなっています（図 2.75）。

公民館とコミュニティ施設はいずれも地域による利用が中心になりますが、集会所等のコミュニティ施設の方が密に整備されているため、より地域の施設としての意識が高いことが伺われます。

また、公民館に関する世代間の違いは、地域活動への参加や社会貢献に対する意識の差が表れている可能性があり、コミュニティの活性化や市民協働を推進する施策と連携した施設のあり方を検討することも必要です。

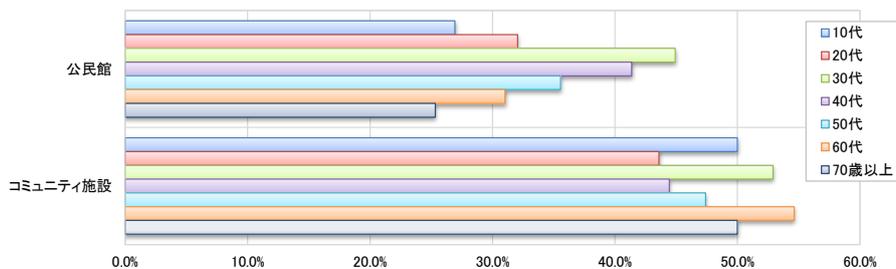


図 2.75 地域で提供しても良いサービス（年齢階層別の回答割合。1番目～3番目の合計。）

### (3) 主な行政の分野における公共施設の運営主体のあり方について

#### ① 高齢者福祉サービスの運営主体のあり方 [Q5 (3)、(4)、(5)、(6)]

##### ■ 運営主体として公共・民間のいずれも期待されている。

○今後の高齢者福祉施設サービスのあり方については、多くの方が「今後拡充が必要」と回答していますが（P21 図 2.33 参照）、サービスの提供主体については、公共と民間に対する期待はほぼ同等であり、どちらでも良いとの回答も約半分を占めています。

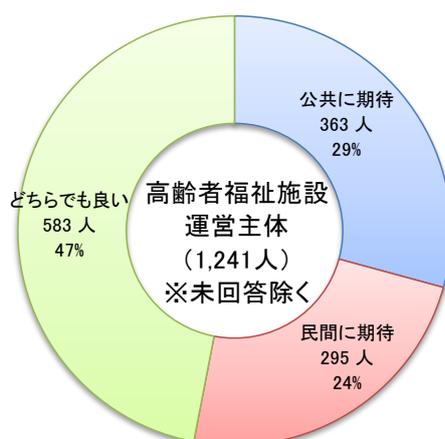


図 2.76 期待される運営主体（高齢者福祉サービス）

##### ○ 公共と民間の評価は大きく分かれている。

- ・公共については「安心感」と「費用負担の小ささ」との回答が多く、特に「安心感」が1番目に挙げられています。民間については「サービスの質や内容」、「対応が良い」との回答が多く、特に「サービスの質や内容」が1番目に挙げられています（図 2.77）。
- ・施設の建物等の使いやすさに対する評価は、どちらも「良い」または「どちらかといえば良い」が8割以上を占めていますが、「どちらかといえば悪い」との回答は公共が多くなっています（図 2.78）。

##### ○ それぞれの特徴を活かしたサービスの充実が求められている。

- ・「その他」の意見として、“お互いの長所を活かして競い合ってほしい”、“” 選択肢が増えるのは良いこと”、“良いサービスが利用できれば良い”など、主体に関らず適切なサービスが受けられることが重要との指摘を頂いています。

公共と民間で評価されているポイントが異なっており、民間の活用を拡大する際には、「安心感」や「費用負担が小さい」など民間の評価が低いポイントを補完するための工夫が求められます。また、「どちらでも良い」と回答した中の約3割弱が「両者に差がない」と回答していることから、公共、民間で行うそれぞれの意義について考えていく必要があります。

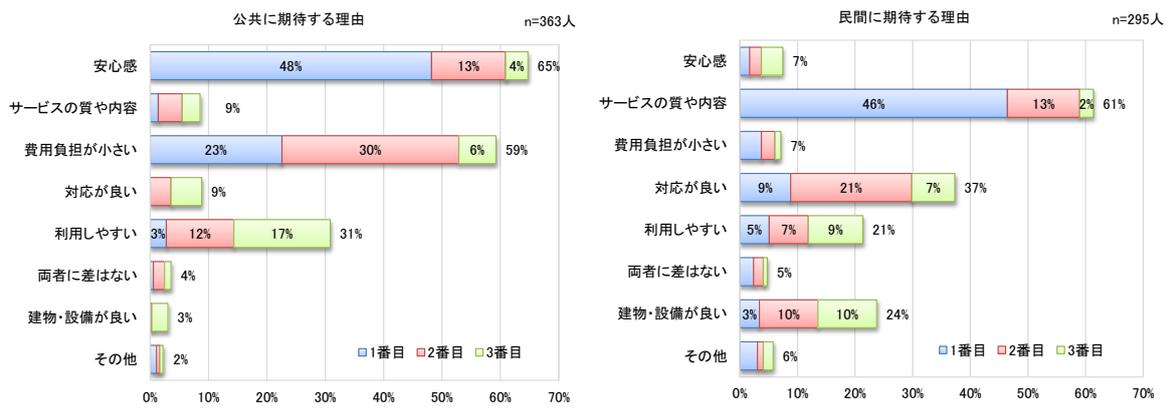


図 2.77 公共／民間を運営主体として評価する理由（高齢者福祉サービス）

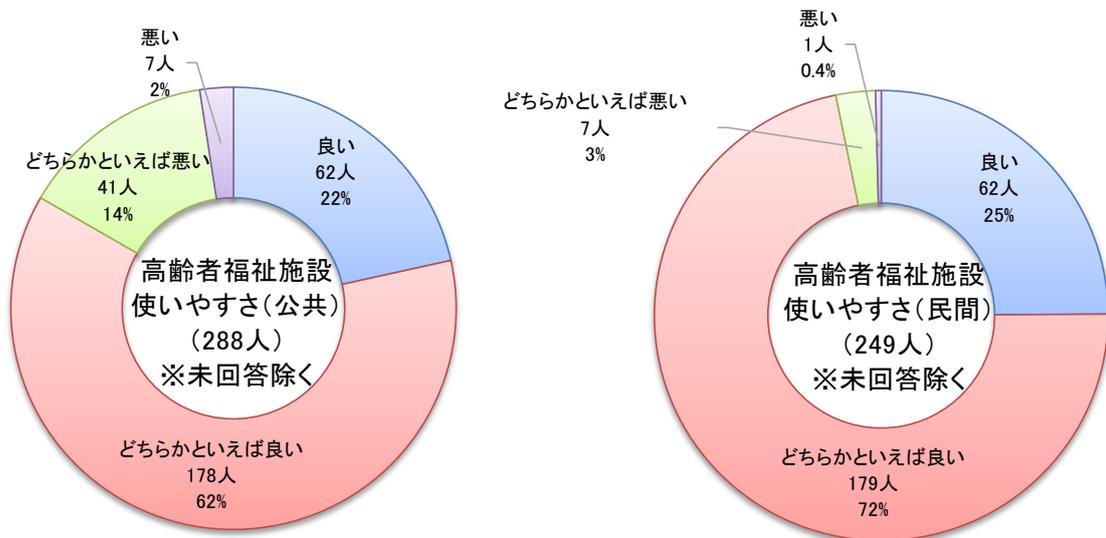


図 2.78 公共施設／民間施設の建物等の使いやすさ（高齢者福祉サービス）

## ② 子育て支援サービスの運営主体のあり方 [Q5 (3)、(4)、(5)、(6)]

### ■公共に対する期待が大きいが、公共・民間どちらでもよいとの回答も半数。

○今後の子育て支援サービスのあり方については、多くの方が「今後拡充が必要」と回答していますが（P24 図 2.38 参照）、サービスの提供主体について、「公共に期待」が「民間に期待」の約 3 倍となっており、一方で、どちらでも良いとの回答も約半分を占めています。

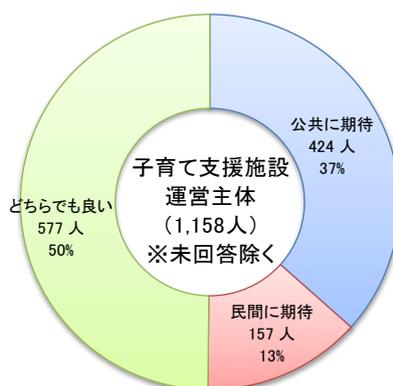


図 2.79 期待される運営主体（子育て支援サービス）

### ○ 公共は「安心感」や「費用負担の小ささ」を評価。民間は「サービスの質」等を評価。

- ・公共については「安心感」と「費用負担の小ささ」との回答が多く、特に「安心感」が 1 番目に挙げられています。民間については「サービスの質や内容」、「対応が良い」が多く、特に「サービスの質や内容」が 1 番目に挙げられています（図 2.80）。
- ・施設の建物等の使いやすさに対する評価は、どちらも「良い」または「どちらかといえば良い」が 8 割以上を占めていますが、「どちらかといえば悪い」との回答は公共が多くなっています（図 2.81）。

### ○ 利用頻度が高い人は公共に期待している。

- ・利用経験のある人は回答者全体の 1 割強に留まりますが、利用頻度が高い人ほど、公共に期待する傾向が伺われます（図 2.82）。

### ○ 公共の関与に期待する意見が多く見られる。

- ・「その他」の意見として、高齢者福祉施設と同様に、主体に関らず適切なサービスが受けられることが重要との指摘を頂いています。
- ・加えて、公共が関与することで、「安心感」と「費用負担の小ささ」が守ることの重要性を指摘する意見も複数頂いています。

高齢者福祉施設と比べて公共に対する期待が高く、民間の活用を検討する際には、「安心感」や「費用負担が小さい」など民間の評価が低いポイントを補完する取り組みが特に重要になると考えられます。また、「どちらでも良い」と回答した中の約 3 割が「両者に差がない」と回答していることから、公共、民間で行うそれぞれの意義について考えていく必要があります。

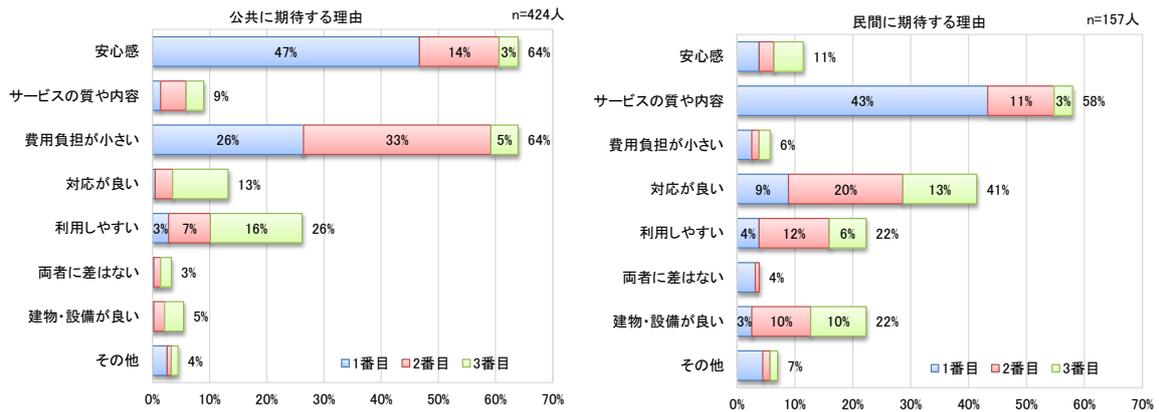


図 2.80 公共／民間を運営主体として評価する理由（子育て支援サービス）

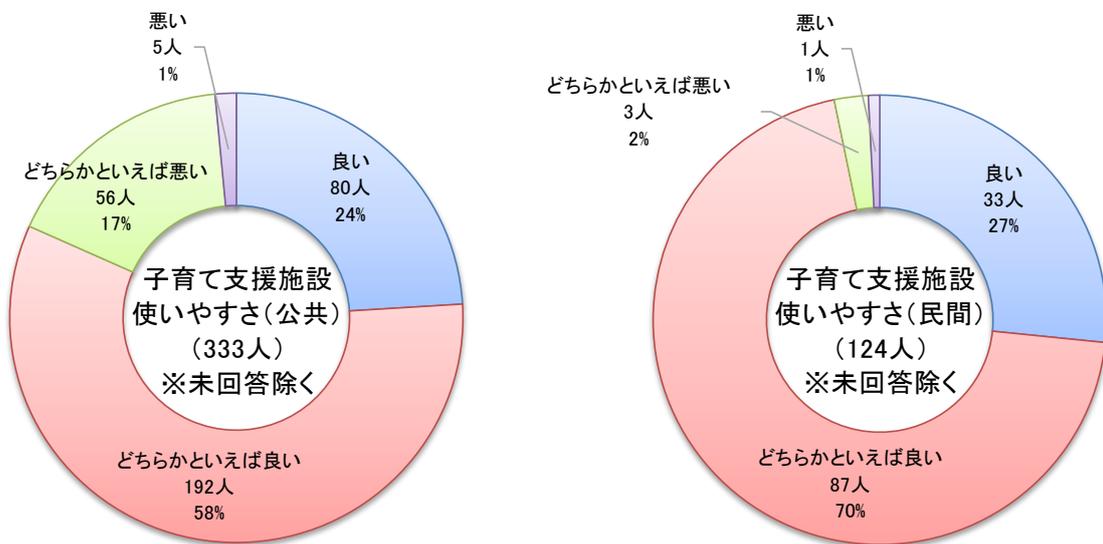


図 2.81 公共施設／民間施設の建物等の使いやすさ（子育て支援サービス）

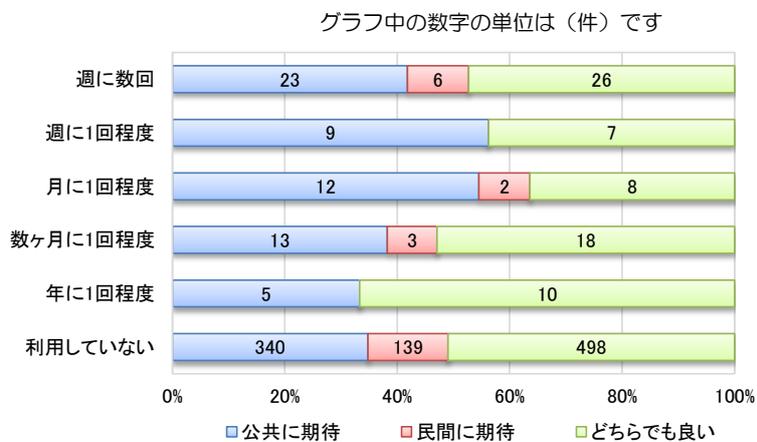


図 2.82 子育て支援サービスの提供主体（利用頻度別の回答者割合。1番目～3番目の合計。）

### ③ コミュニティ、生涯学習サービスの運営主体のあり方 [Q5 (3)、(4)、(5)、(6)]

#### ■公共に対する期待が大きい、公共・民間どちらでもよいとの回答も半数。

○今後のコミュニティ、生涯学習サービスのあり方については、拡充に否定的な回答が多くなっていますが（P27 図 2.43 参照）、サービスの提供主体については、「公共に期待」が「民間に期待」の約3倍となっており、一方で、「どちらでも良い」との回答も約半分を占めています。

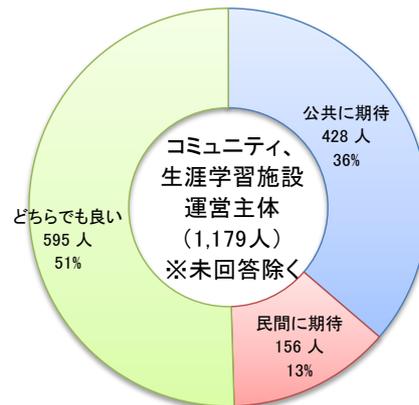


図 2.83 期待される運営主体（コミュニティ、生涯学習サービス）

#### ○ 公共は「安心感」や「費用負担の小ささ」を評価。民間は「サービスの質」等を評価。

- ・公共については「安心感」と「費用負担の小ささ」との回答が多く、特に「安心感」が1番目に挙げられています。民間については「サービスの質や内容」、「対応が良い」が多く、特に「サービスの質や内容」が1番目に挙げられています（図 2.84）。
- ・施設の建物等の使いやすさに対する評価は、どちらも「良い」または「どちらかといえば良い」が85%以上を占めていますが、「どちらかといえば悪い」との回答は公共が多くなっています（図 2.85）。

#### ○ 利用頻度が高い人ほど公共への期待が大きい。

- ・利用経験のある人は回答者全体の約3割ですが、利用頻度が高い人ほど、公共に期待する傾向が伺われます（図 2.86）。

#### ○ それぞれの特徴を活かしたサービスの充実が求められている。

- ・「その他」の意見として、“お互いの長所を活かして競い合ってほしい”、“選択肢が増えるのは良いこと”、“良いサービスが利用できれば良い”など、主体に関らず適切なサービスが受けられることが重要との指摘を頂いています。

高齢者福祉施設と比べて公共に対する期待が高く、民間の活用を検討する際には、「安心感」や「費用負担が小さい」など民間の評価が低いポイントを補完する取り組みが特に重要になると考えられます。しかし、今後のあり方については、拡充に否定的な回答が多く、公共・民間どちらでも良いと回答した約3割強が差はないと回答していることから、施設の収益性の視点も踏まえ、どのような運営形態が良いか考えていく必要があります。

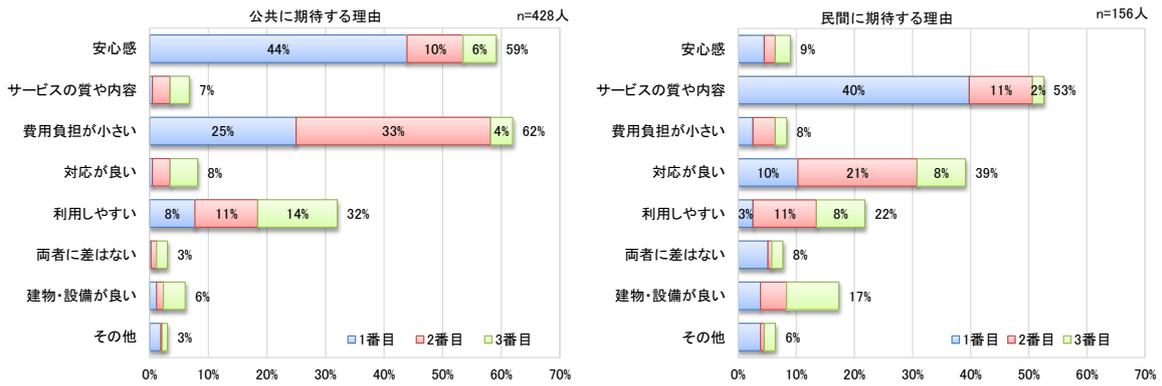


図 2.84 公共／民間を運営主体として評価する理由（コミュニティ、生涯学習サービス）

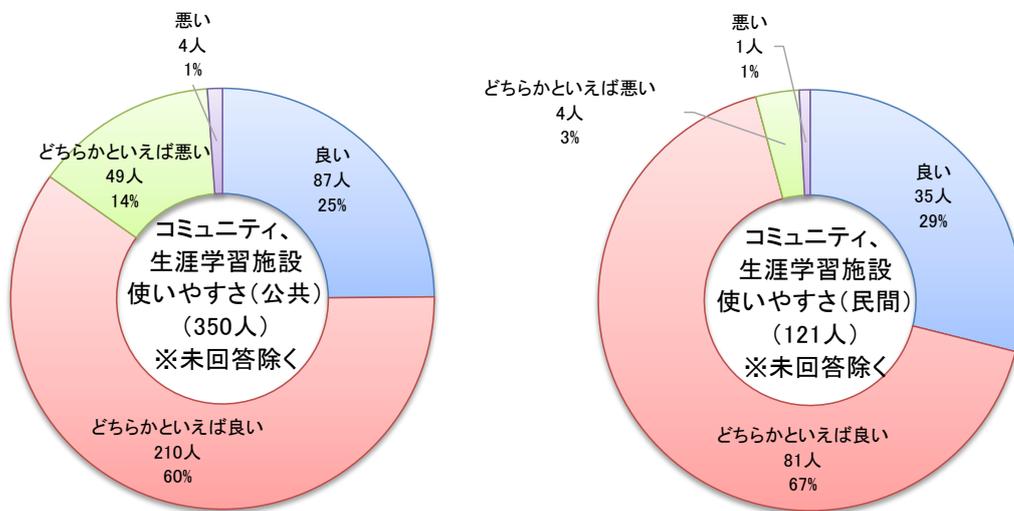


図 2.85 公共施設／民間施設の建物等の使いやすさ（コミュニティ、生涯学習サービス）

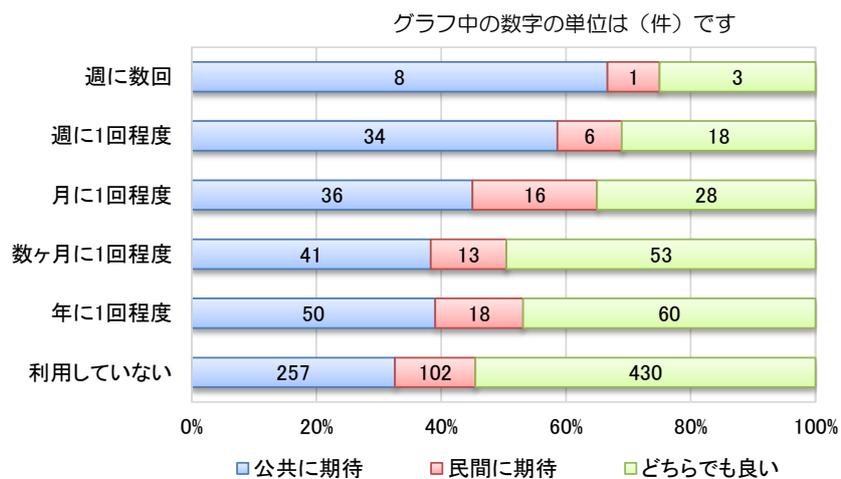


図 2.86 コミュニティ、社会教育サービスの提供主体（利用頻度別の回答者割合。1番目～3番目の合計。）

## 2.5 公共施設の集約化や複合化について

### (1) 集約化や複合化に対する考え方、学区の拠点となる場所 [Q11 (1)、(2)]

#### ■ 集約化や複合化の推進には9割以上が賛成。

○公共施設の集約化・複合化については「進めるべき」との回答が91%を占めています。

#### ■ 地域の中心的な場所を「市民センター」との認識する人が多い。

○学区の拠点もしくは地域活動の中心として認識されている場所は、「市民センター」との回答が66%を占めています。次いで、「小学校」及び「駅」との回答がそれぞれ13%となっています。

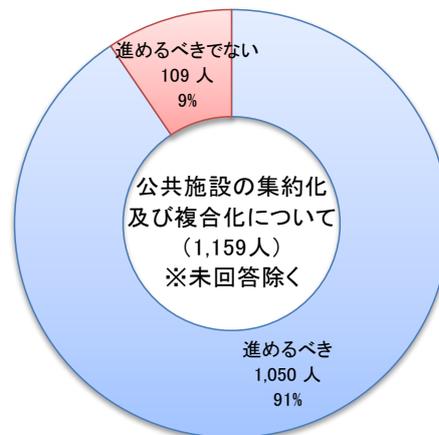


図 2.87 公共施設の集約化・複合化は進めるべきか

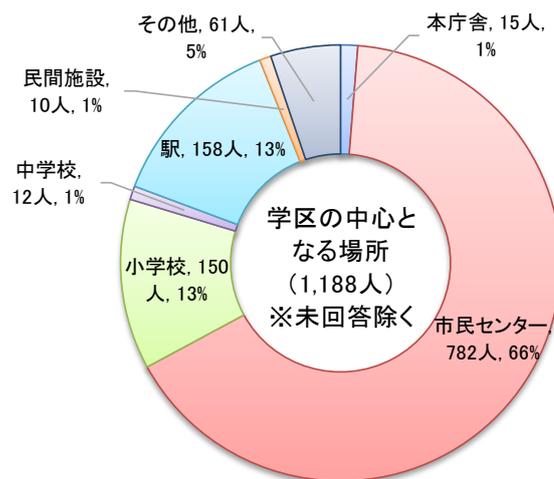


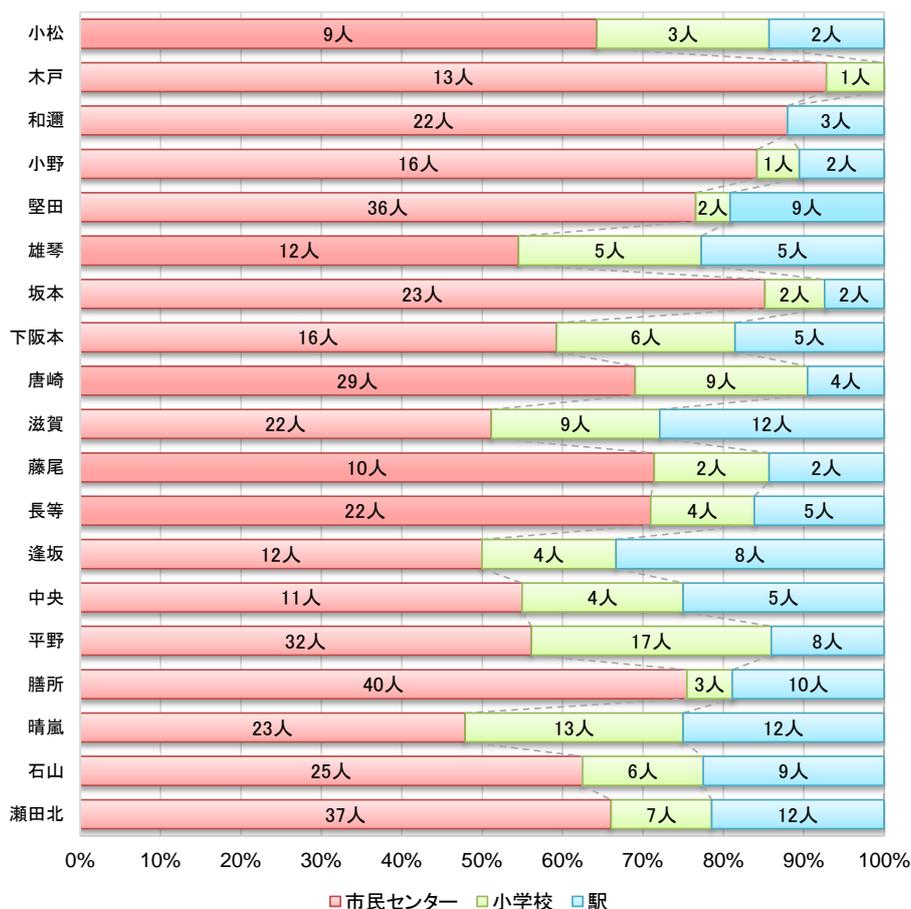
図 2.88 地域の拠点、地域活動の中心と思われる場所

○ **アクセス距離が近く、利用機会の多い施設を中心と感じる。**

- 人口が集中して施設までの距離が短い中部地域を中心に、「小学校」や「駅」が中心と回答する人の割合が高くなっています。逆に、「市民センター」と回答する割合が特に高い地域として、志賀地域、南部地域、東部地域が挙げられ、小学校と比べ利用する機会が多いことが影響していると考えられます。
- 但し、駅については、学区内にない場合もあるほか、駅前の商店等の状況も異なるなど、市民センターや小学校とは条件が異なることに留意が必要です。

住む場所によってアクセス距離は様々であるため、全体として見れば、利用する機会のある市民センターを中心と考える人が多くなっていると推察されますが、支所（市民センター）について「数が多い」、「削減してもよい」との意見もあり、地域ごとに、中心的施設を位置づける妥当性を検討する必要があります。

また、小学校については児童・生徒以外が利用する機会は限られるため、施設のあり方を見直して市民が利用する機会が増えれば、地域の中心となる施設との認識も高まることが見込まれます。



※回答数が10件未満の地域を除いている

図 2.89 学区の拠点もしくは地域活動の中心（市民センター、小学校、駅の比較）

## (2) 望ましい集約化のあり方

### ① 市民センターを核とする集約化 [Q11 (3)]

#### ■ 「市民センター」は高齢者も子どもも集まる場所に。

○市民センターについては、1 番目の選択が 6 つの施設に意見が分かれており、地域の拠点として認識されていることと合わせ、多様なサービスを提供する拠点として活用できる可能性があります。

○6 つの施設の中でも、2 番目・3 番目の選択を合わせると、健康な高齢者の交流施設が最も多くなっています。

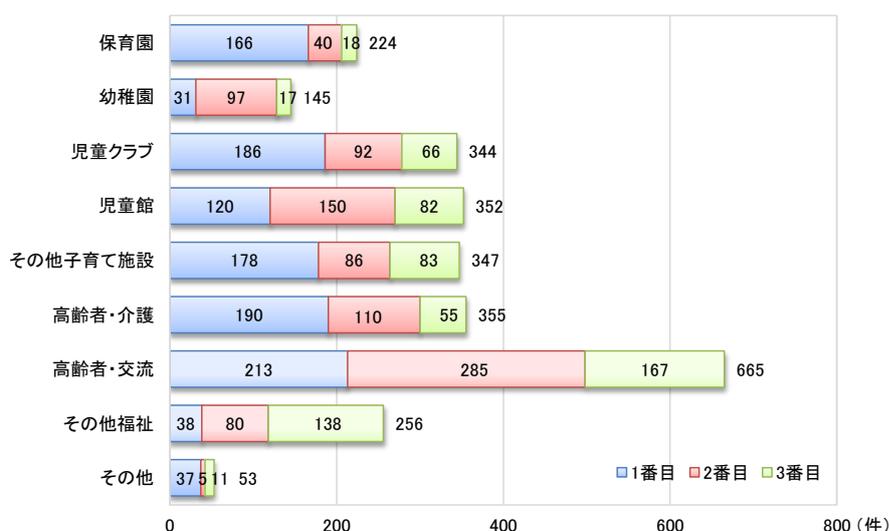


図 2.90 集約化のあり方（市民センターに集約）

#### ○ 世代により施設の選択に差はないが、集約化への関心は異なる。

- ・集約施設として回答数が多い施設は、全ての年齢階層から支持されていますが、全般的に 60 代以上の高齢者の回答割合が他の世代よりも低く、高齢者は集約化に対し肯定的でないことが伺われます。

集約化の検討とその実現には一定の年数を要することになることから、現在の利用者だけでなく、将来的な利用者の意向も踏まえて検討を進めることが重要です。また、将来の市民センターを考える上では、将来を見据えた機能を踏まえ、市民ニーズや政策とも照らし合わせながら進めていく必要があります。

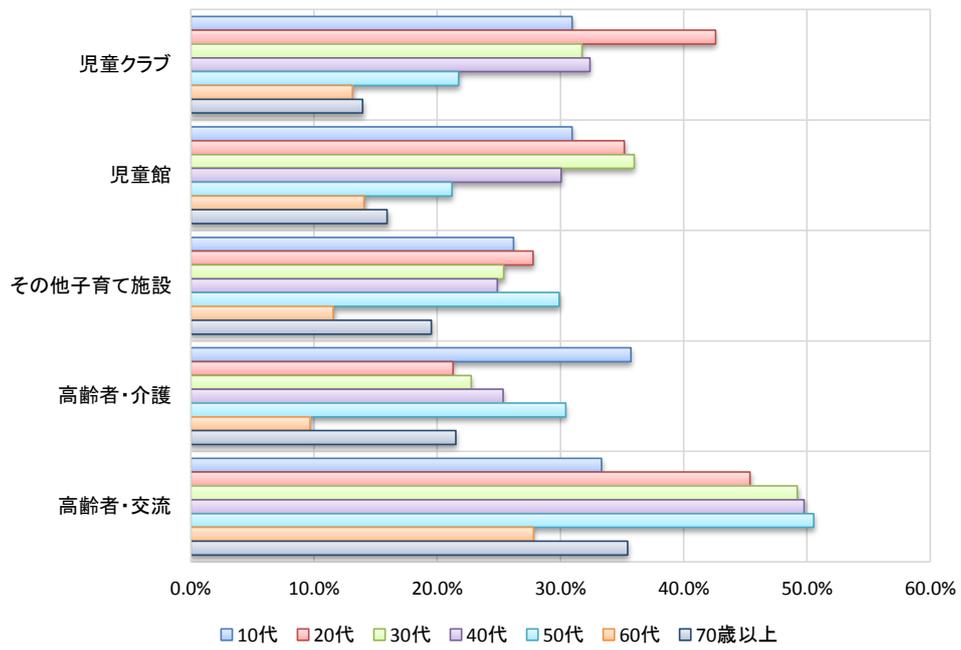


図 2.91 市民センターへの集約が望ましいサービス（年齢階層別の回答割合）

## ② 学校を核とする集約化 [Q11 (4)]

### ■ 「学校」は子ども向けのサービス拠点に。

○学校については、1番目に選択した施設を見ると、「児童クラブ」及び「保育園」が多く、児童施設の中でも、働いている保護者の保育ニーズが特に大きいと考えられます。

○2番目・3番目に選択した施設もあわせると、利用者が子どもで共通する「幼稚園」及び「児童館」の集約を望む意見も多くなっています。

### ■ 学校体育館は地域のスポーツ施設として活用。

○子ども向けの施設以外では、「スポーツ施設」との集約の回答が多く、体育館等を開放して地域の施設として活用する意見も多いと考えられます。

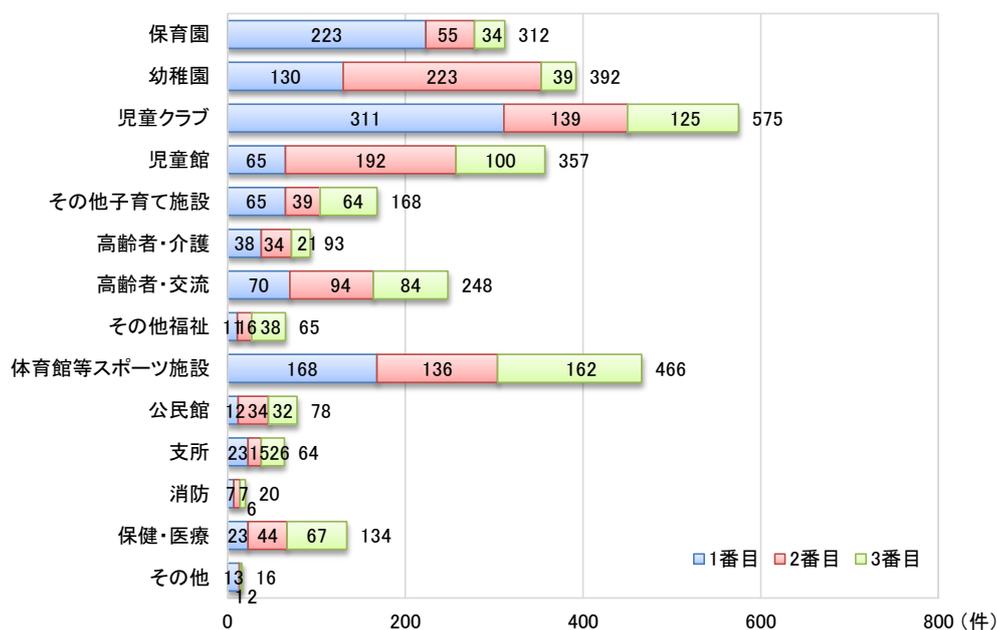


図 2.92 集約化のあり方（学校に集約）

### ○ 世代により施設の選択に差はないが、集約化への関心は異なる。

- ・集約施設として回答数が多い施設は、全ての年齢階層から支持されていますが、全般的に60代以上の高齢者の回答割合が他の世代よりも低く、高齢者は集約化に対し肯定的でないことが伺われます。

### ○ 地域により違いが見られる。

- ・地域別に見ると、志賀地域で保育園及び幼稚園を選択する割合が少なく、集約施設としての認識が低く、単独施設としての認識が強くなっている。

集約化の検討とその実現には一定の年数を要することになることから、現在の利用者だけでなく将来的な利用者の意向も踏まえて検討を進めることが重要です。

また、市全体で一律の集約化を図るのではなく、地域によるニーズの違いを踏まえ、それぞれの地域にとって価値の高い施設へ見直すことも必要です。

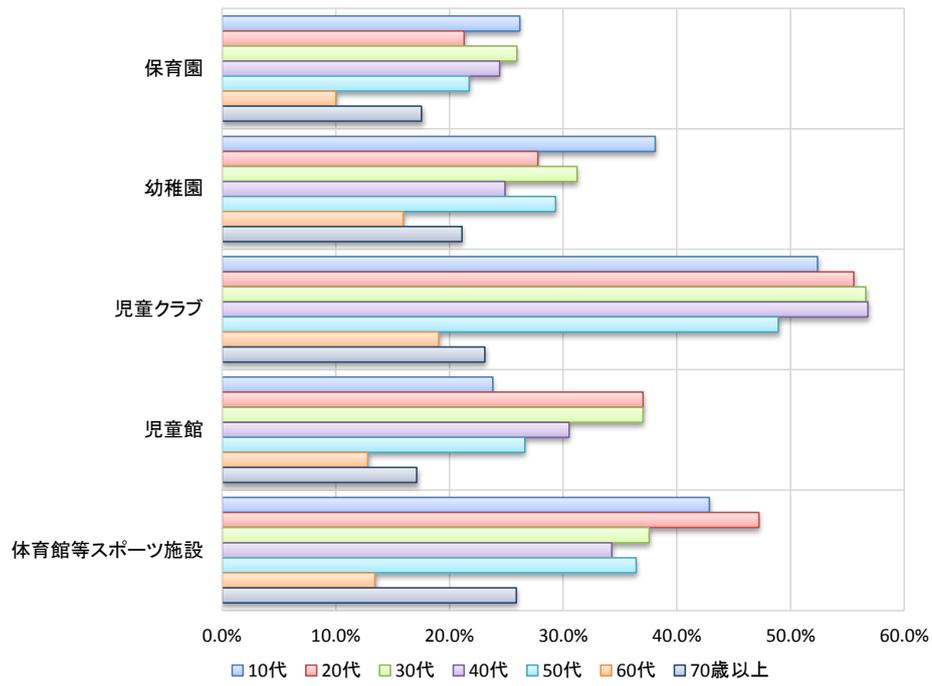


図 2.93 学校への集約が望ましいサービス（年齢階層別の回答割合）

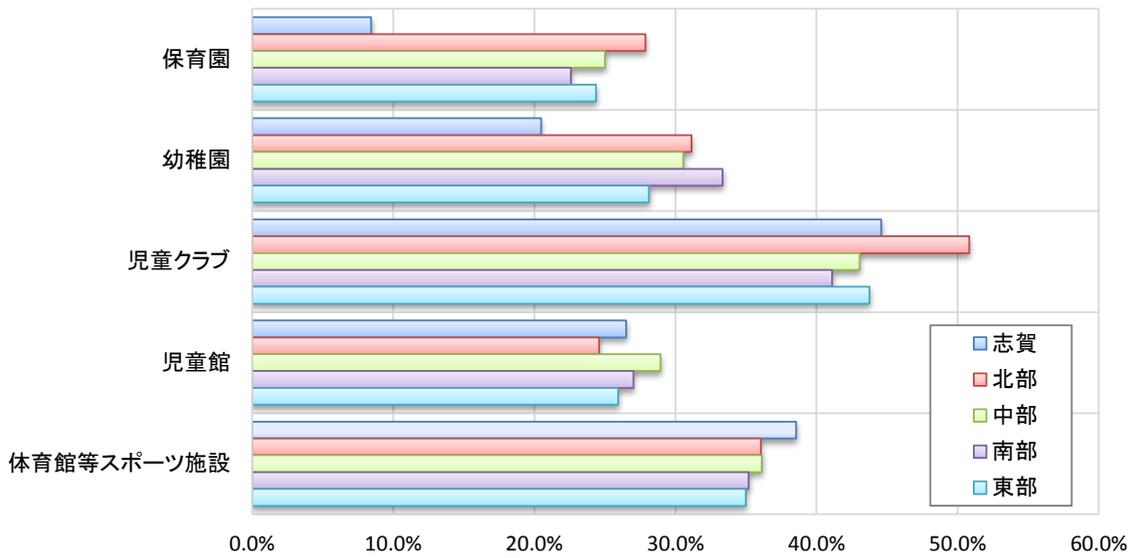


図 2.94 学校への集約が望ましいサービス（地域別の回答割合）

### ③ 駅を核とする集約化 [Q11 (5)]

#### ■ 「駅」は毎日の移動など、特に利便性を求めるサービス拠点。

○駅については、「保健・医療」「支所」「保育園」の回答が多く、特に1番目の選択として「保育園」が突出しており、毎日の通勤時での利用が期待されていると想定されます。

○挙げられたサービスを見ると、利用頻度の高いサービスを移動のついでや、利用者が特に利便性を求める施設を集約することが期待されています。

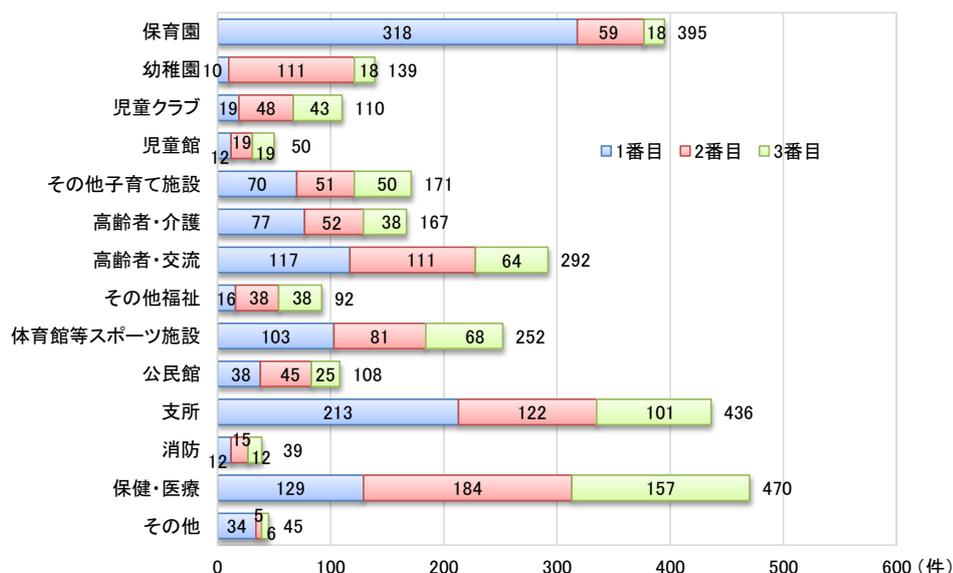


図 2.95 集約化のあり方（駅に集約）

#### ○ 世代により施設の選択に差はないが、集約化への関心は異なる。

- ・集約施設として回答数が多い施設は、全ての年齢階層から支持されていますが、一般的に60代以上の高齢者の回答割合が他の世代よりも低く、高齢者は集約化に対し肯定的でないことが伺われます。

#### ○ 地域により違いが見られる。

- ・地域別に見ると、志賀地域で保育園を選択する割合が少なく、市民ニーズの違いが現れていると推測されます。

集約化の検討とその実現には、一定の年数を要することから、現在の利用者だけではなく将来的な利用者の意向も踏まえて検討を進めることが重要です。

また、市全体で一律の集約化を図るのではなく、地域によるニーズの違いを踏まえ、それぞれの地域にとって価値の高い施設へ見直すことも必要です。

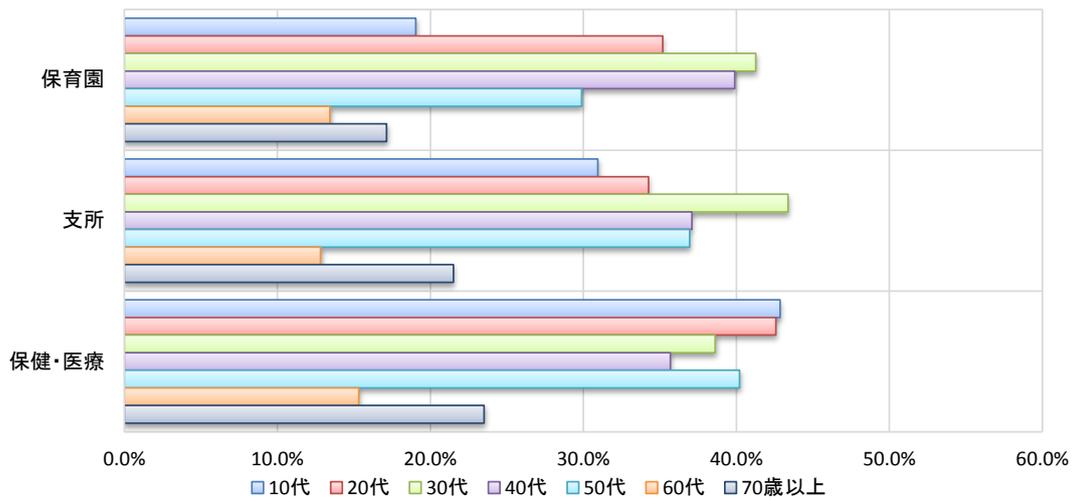


図 2.96 駅への集約が望ましいサービス（年齢階層別の回答割合）

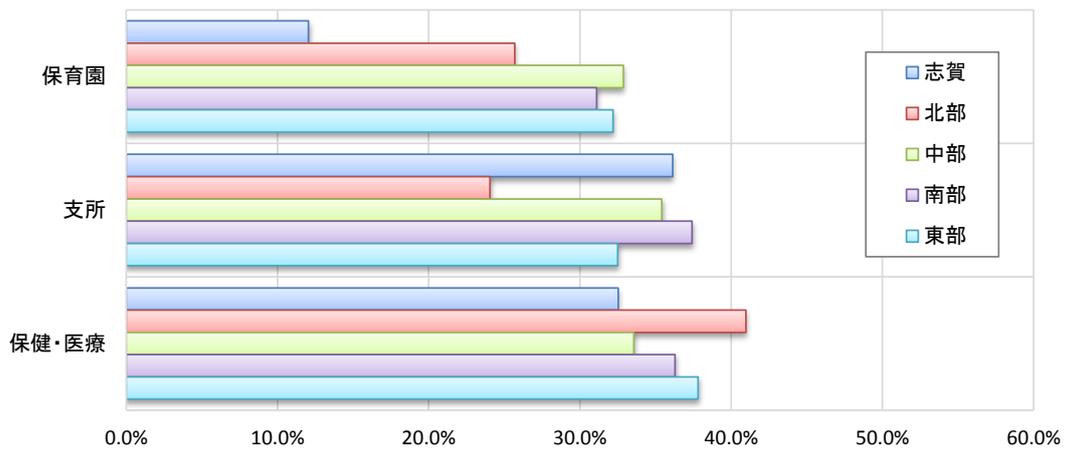


図 2.97 駅への集約が望ましいサービス（地域別の回答割合）

#### ④ 民間施設を核とする集約化 [Q11 (6)]

##### ■ 「民間施設」へは、ついでの利用で相乗効果が高まるサービスの拠点に。

○大型ショッピングセンター等の民間施設への集約については、「高齢者・交流」、「スポーツ」、「支所」、「保健・医療」の回答が多くなっており、駅を中心とした場合と同様に、買い物等と併行して利用できることで利便性の高まる施設を配置することが期待されています。

○2番目・3番目の選択を合わせると、駅と異なり「保育園」との回答は少なく、「スポーツ施設」「高齢者・交流」との回答が多くなっているほか、その他子育て施設など、ついでの利用やちょっとしたサービスが受けられる利便性の向上が図れる施設の回答が多くなっています。

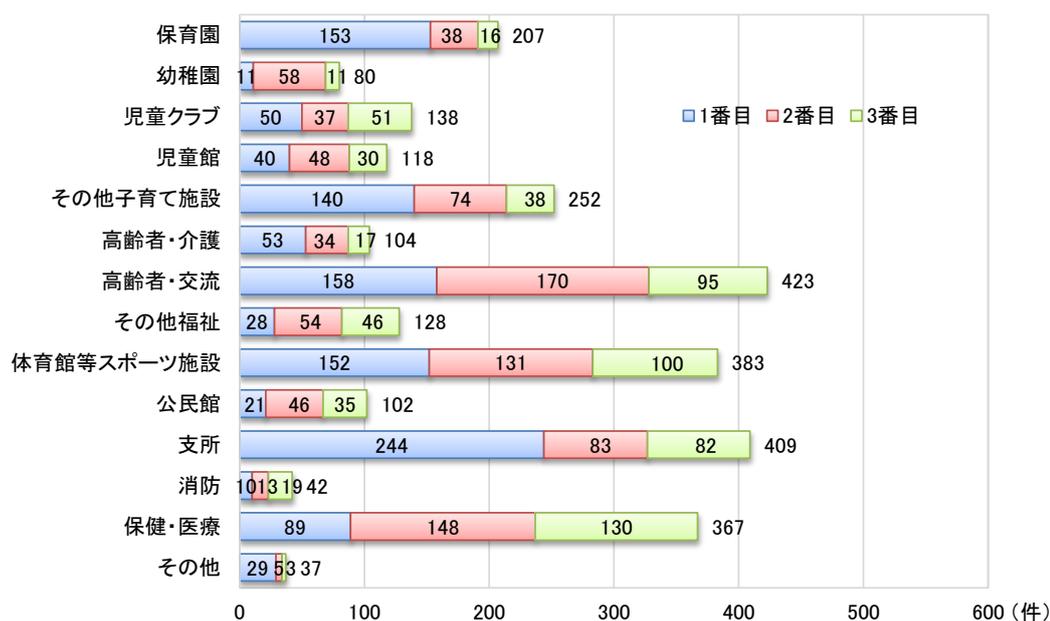


図 2.98 集約化のあり方（民間施設に集約）

##### ○ 世代により施設の選択に差はないが、集約化への関心は異なる。

・集約施設として回答数が多い施設は、全ての年齢階層から支持されていますが、全般的に60代以上の高齢者の回答割合が他の世代よりも低く、高齢者は集約化に対し肯定的でないことが伺われます。

##### ○ 地域により違いが見られる。

・地域別に見ると、志賀地域で保育園を選択する割合が少なく、市民ニーズの違いが現れていると推測されます。

集約化の検討とその実現には一定の年数を要することになることから、現在の利用者だけでなく将来的な利用者の意向も踏まえて検討を進めることが重要です。

特に、大型ショッピングセンター等の民間施設に公共施設を設置する場合、ついでの利用やちょっとしたサービスに対する期待が大きいことから、地域の違いを踏まえながら、将来の市民ニーズに応じた検討が必要です。

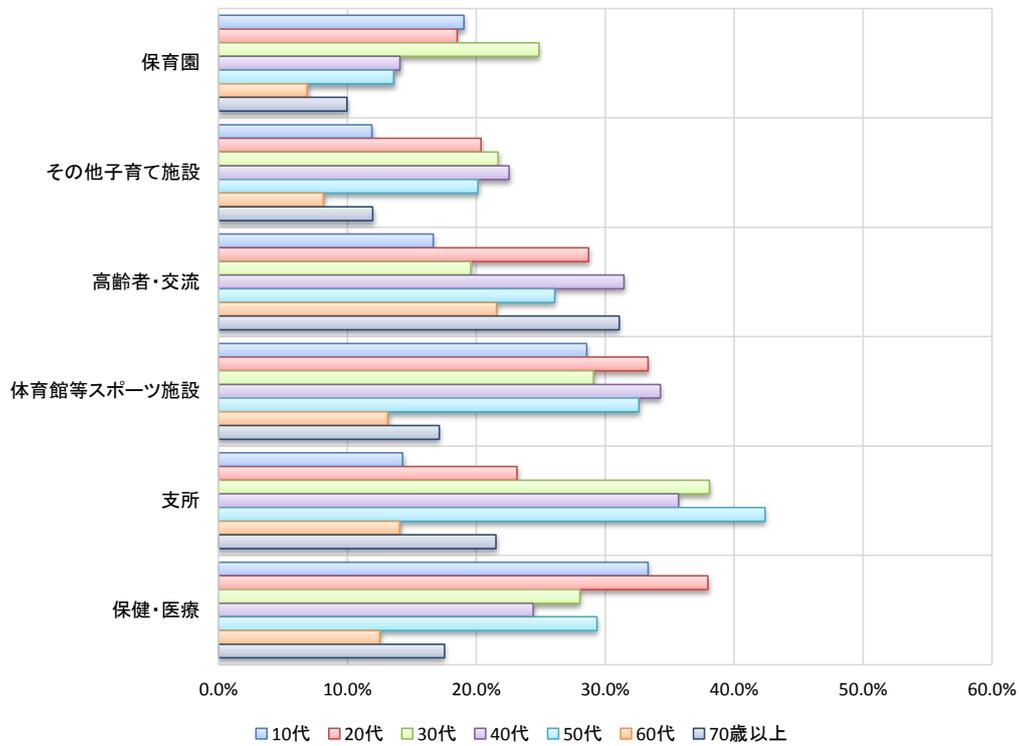


図 2.99 民間施設への集約が望ましいサービス（年齢階層別の回答割合）

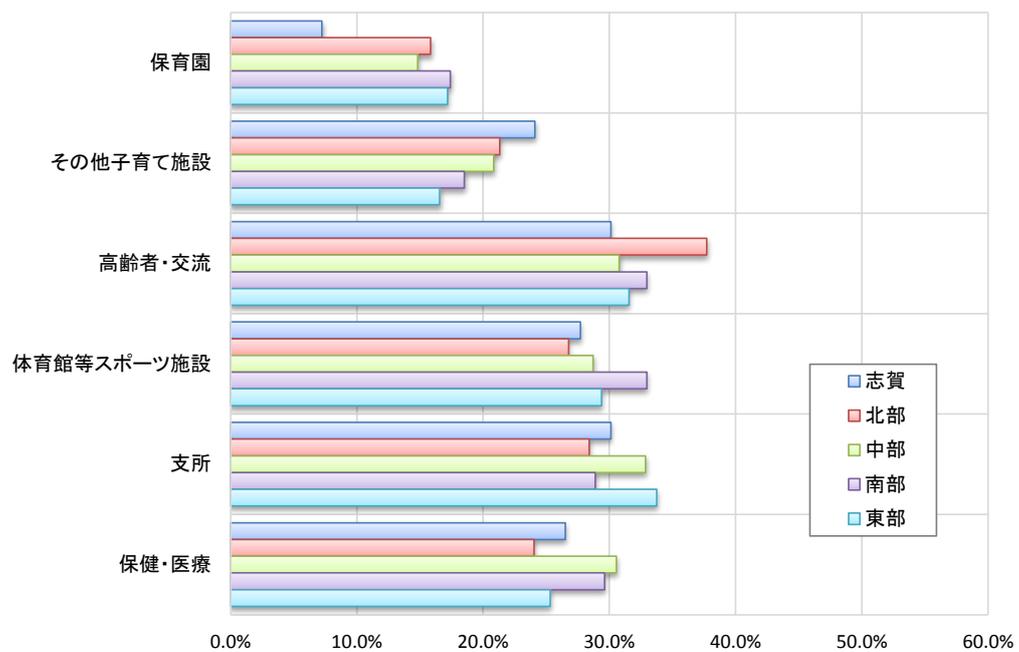


図 2.100 民間施設への集約が望ましいサービス（地域別の回答割合）

## ⑤ 大規模施設を核とする集約化 [Q11 (7)]

### ■ 「大規模施設」には、「スポーツ」や「高齢者交流」など多くの人々が集まる拠点に。

○大規模な公共施設への集約施設としては、「スポーツ施設」と「高齢者・交流施設」に回答が集中しており、比較的大規模な交流施設を集約することにより、多くの人々が集まるサービス拠点としての意見が多い結果となっています。



図 2.101 集約化のあり方（大規模施設に集約）

### ○ 世代により施設の種類に差はないが、集約化への関心は異なる。

- ・集約施設として回答数が多い施設は、全ての年齢階層から支持されていますが、全般的に60代以上の高齢者の回答割合が他の世代よりも低く、高齢者は集約化に対し肯定的でないことが伺われます。

集約化の検討とその実現には一定の年数を要することから、現在の利用者だけではなく将来的な利用者の意向も踏まえて検討を進めることも必要です。

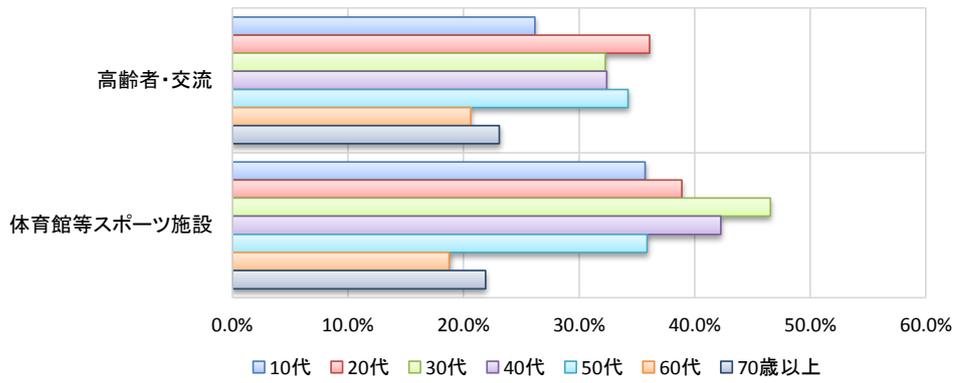


図 2.102 大規模施設への集約が望ましいサービス（年齢階層別の回答割合）

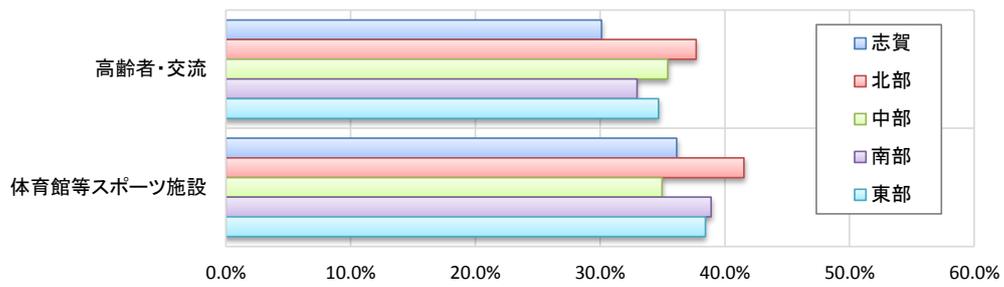


図 2.103 大規模施設への集約が望ましいサービス（地域別の回答割合）

## 2.6 その他の意見

「その他」の回答欄や自由回答欄で、次のようなご意見やご指摘を多数頂いており、今後の公共施設マネジメントの取り組みに反映していきます。

### ■ 公共施設マネジメントのあり方について

#### ○ **はじめに、現状の無駄を省くことが重要。**

- ・サービス廃止の議論の前提として、人件費や議員定数等も含め、行政のあらゆる部分で無駄を省いていくことが重要である。

#### ○ **十分に現状を把握した上で、選択と集中を図るべき。**

- ・個別の施設や地域ごとに状況は異なるため、必ずしも一律の対応ではなく、現在の利用状況や市民の意向を十分に把握した上で、時代の変化を考慮して施設やサービスの要／不要を見極める必要がある。

#### ○ **税金で守るべきところと、利用者の負担を求めるべきところの峻別が必要。**

- ・安全安心、子育てなど税金で支えあうべき分野と、趣味や文化活動など利用者の料金等の負担を求める分野を峻別して、コスト負担のあり方を見直していく必要がある。

#### ○ **税収を増やすという発想も必要。**

- ・子育て環境などで魅力を高めて新たな住民を呼び込むなど、税収を増やすという発想も必要になる。

#### ○ **他自治体の施設を利用している実態がある。**

- ・建物やサービスの内容を比較し、あえて京都市や草津市の施設を利用している場合もある。

#### ○ **サービス提供方法の工夫が必要。**

- ・コンビニでの証明書の発行、窓口受付ではなく出張での手続き対応、現地に行かなくても施設予約できるなど、サービス提供の方法についても工夫が必要である。

### ■ 公共施設のあり方について

#### ○ **利用時間帯に工夫がほしい。**

- ・仕事をしている人でも利用できるよう、平日夜間や土日などに利用できると良い。

#### ○ **交通利便性への配慮が必要。**

- ・自動車利用のための駐車場確保、高齢者のための公共交通の充実など、施設にアクセスするための手段にも配慮する必要がある。